



吉村 忍 議員

指名競争入札について

【質問の趣旨】

相次いで発生している「指名競争入札の取消し」について、昨年6月議会（平成30年6月25日）で再発防止策を問い、「再発防止には最善を尽くす。」との答弁であったが、以降も11件も発生しており、平成30年度は13件発生し、平成29年度と比較すると2倍以上になっている。

各事業者は、工事落札のため、複数の積算ソフトの導入や技術者の雇用など、積算技術向上のため多額の費用の投入や様々な企業努力をしており、単純なミスや確認の怠慢による「入札の取消し」で多大なる被害を被っている。

また、事業者のみならず、その社員や家族へ多大な負担を強いることとなり、着工等の遅れにより、住民の生活にも大きく影響している。

【平成29年度】

土木建設工事の入札 87 件
 違算による入札の取消し 6 件

【平成30年度】

土木建設工事の入札 132 件
 違算による入札の取消し 13 件
 ・産業建設部 7 件
 ・環境生活部 6 件
 （平成31年3月11日現在）

問 昨年の6月議会以降、実際にとった再発防止策は？

答 昨年6月議会で「入札の取消し」について質問があったが、その後においても、土木建設工事設計書に係る積算誤りに起因する入札取消しが相次いで発生し、入札に関わる関係者のみならず、再度入札の実施などによる公共工事の遅延などにより、

町民の皆様にもご迷惑おかけしていることに対し深くお詫びする。

積算担当者だけのチェックではなく、他の職員による適用単価、適用歩掛、単価根拠等付属資料、金抜き設計書及び仕様書等のチェックを行っている。

問 今後、違算による入札取消しをなくすための再発防止策は？

答 積算書チェックの分業化の検討、複数の積算システムを使用し計算結果が同額となるかの体制を導入するなど、精度を上げてチェックするように検討する。また、入札取消しの違算などの影響を総合的に勘案したうえで、入札制度の見直しを検討する。

問 入札の取消し理由は？

答 入札後に積算疑義申立て期間があり、応札した指名業者から積算内容の誤りについての申立てによるもので、この申立て内容について調査した結果、積算に誤りが認められたためである。

積算内容の誤り（違算）の例

- 引用すべき単価の誤り
- 条件設定に誤った情報を記載したことにより入札価格が2通りになった
- 積算内容の理解不足による計算ミス
- 単価の入力もれ

問 違算による入札の取消しを防ぐための適切な人員配置や専門技術者の採用も必要ではないか。

答 専門技術者の募集をしているが、応募がなく採用に至っていないのが現状である。

職員を育てていく観点での人事異動は行っている。

要望 取消し通知文書は誠意を感じさせるものではない。また、郵送とのことだが、関係者が直接謝罪に事業者を訪れ、誠意を以って対応することを求める。